森屋西遺跡発掘調査報告書Ⅱ

2005.3

千早赤阪村教育委員会

はしがき

大阪府下で唯一の村である千早赤阪村は、楠木正成が山城を築き幕府軍に応戦した地、南北朝動乱の舞台の１つとなった地として『太平記』などの書物によって広く知られています。本村には、楠木正成が築城したとされる山城跡や生誕の地という伝承の残る『楠公誕生地』などの史跡や遺跡などが多く残り、発掘調査においても、二重の堀を周囲に巡らせる14世紀の建物跡の検出など、めざましい調査成果を得ております。

今回報告を行う森屋西遺跡からは、中世の瓦がまとまって出土し、本村の歴史解明を助ける貴重な資料の１つとなることでしょう。

調査の実施及び遺物整理にあたっては、多くの方々のご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年３月

千早赤阪村教育委員会

教育長職務代理者　　酒　見　昌　男

例　　言

1　本書は、平成13年度に行われた個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査の概要報告書である。

2　調査は、千早赤阪村教育委員会　社会教育課（当時　指導課）　主事　和泉大樹　を担当者として、平成14年３月11日に着手し、平成14年３月16日をもって終了した。引き続き遺物整理を行い、平成14年３月31日に完了した。

3　本書の執筆・編集は和泉が行った。

4　調査の実施及び本書の作成にあたっては次の方々の参加を得た。（順不同・敬称略）
　岩子苑子・谷口夫抄子・福田夏子・周藤光代・前川篤史

5　現地調査及び遺物整理において下記の機関・方々にご協力頂きました。記して感謝の意を表します。（順不同・敬称略）
　大阪府教育委員会・富田林市教育委員会・上田睦・栗田薫

6　挿図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はＴ.Ｐで表示した。

7　第２図周辺遺跡分布図の桐山遺跡は現在範囲が拡大しているが、本書では拡大前のものを用いている。

目　　次

はしがき
例言
目次
1．はじめに
（1）調査の契機 …… 1
（2）調査地周辺の地形 …… 1
（3）調査地周辺の歴史的環境 …… 1
2．調査成果の概要
（1）調査区の概要 …… 4
（2）調査区の層序 …… 5
（3）主な検出遺構と出土遺物 …… 6
3．まとめ …… 9

挿図目次

第1図　千早赤阪村位置図 …… 1
第2図　周辺遺跡分布図 …… 3
第3図　調査区位置図 …… 4
第4図　調査区平面図・断面図及びSD01断面図 …… 5
第5図　SK01平面図・断面図 …… 6
第6図　SK01出土遺物実測図 …… 7
第7図　SK01・SD01出土遺物実測図 …… 8

図版目次

図版1　調査区全景等
図版2　SD01遺物出土状況等
図版3　SK01・SD01出土遺物（軒丸瓦・軒平瓦）
図版4　SK01出土遺物（丸瓦）
図版5　SK01出土遺物（平瓦）

1．はじめに

（1）調査の契機

千早赤阪村大字森屋地内において、個人住宅が建設されることとなった。当該地は埋蔵文化財包蔵地の森屋西遺跡範囲内であったため、確認調査を行った。結果、瓦などの遺物とともに、遺構が確認されたため、本調査を行うこととなった。当該地周辺では中世瓦片が多数採集されており、また、すぐ東側には西楽寺という寺院が所在することから、中世の遺構・遺物の検出が予想された。調査は平成14年３月11日から３月16日の期間で行った。調査面積は159.76㎡であった。なお、調査に係る経費は千早赤阪村が負担した。

（2）調査地周辺の地形

千早赤阪村は大阪府の南東部に位置する。行政区では北・西・南側を河南町・富田林市・河内長野市と、東側を南北に連なる金剛山地を境に奈良県御所市・五條市と接する。その金剛山地から北へと延びる丘陵状山地上、千早赤阪村大字森屋に調査地は位置する。

調査地の東側には大和川の支流、石川へ合流する小河川の１つである千早川が流れ、付近はこれらの河川の浸食作用により階段状の地形、いわゆる河岸段丘が形成されている。

（3）調査地周辺の歴史的環境

木村では現在旧石器・縄文・弥生時代の生活痕跡はほとんど確認されていないものの、楠公誕生地遺跡や大廻遺跡などから縄文時代後期磨消縄文の深鉢片や石器類が数点出土している。とりわけ調査地の周辺ではサヌカイト片が採集できたり、発掘調査時も包含層からサヌカイト片がよく出土し、北東に位置するサヌカイトの産地である二上山の山麓の集落としての姿が明らかになる日もそう遠くないのではなかろうかという感を受ける。また、巨視的に周囲を見れば約２km北側に位置する河南町の神山遺跡からは縄文早期押型文土器・前期条痕文土器・後期磨消縄文土器などの土器片が出土している。同じく河南町の寛弘寺古墳群でも落し穴などの遺構が検出されている。

調査地周辺の古墳時代の遺跡は森屋古墳群・御旅所北古墳・御旅所古墳・浄心寺山古墳などがある。森屋古墳群は６基あったとされているが、いずれの古墳も昭和20年代に道路の設置やみかん山

第１図　千早赤阪村位置図

の開墾などにより消滅している。しかし、中村編年Ⅱ型式Ⅰ・2段階の脚付有蓋子持壺・台付壺、同3段階の子持器台などが付近から採集されており、その存在を示唆する。調査地とは千早川を挟んで、東側に位置する御旅所北古墳・御旅所古墳は本村で発掘調査を行った唯一の古墳である。調査は昭和56・57年に行われており、御旅所北古墳からは周溝や縄掛突起をもつ組合式家型石棺2基が確認されている。調査地の南東に位置する浄心寺山古墳からは、みかん山開墾時に中村編年Ⅱ型式5段階の杯蓋が採集されている。

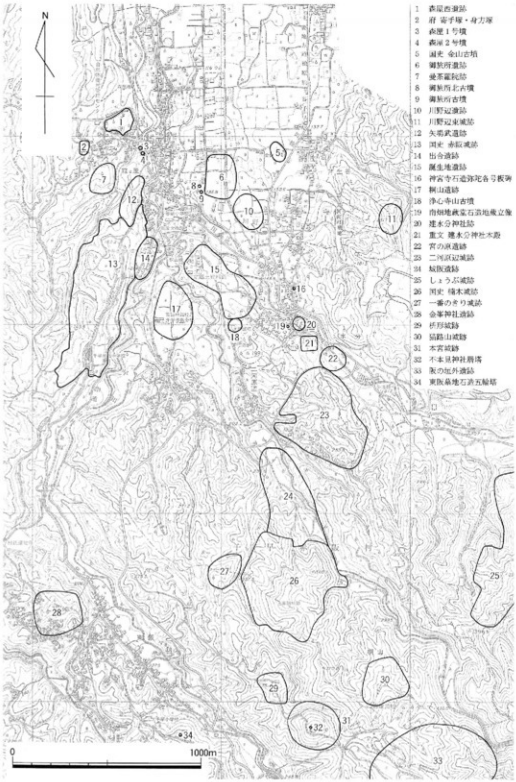
史跡赤阪城跡・御旅所遺跡・楠公誕生地遺跡などからは飛鳥・奈良時代の遺物・遺構を確認している。史跡赤阪城跡からは丘陵の裾部を調査した際に飛鳥Ⅰ・Ⅱ、平城段階の土器が出土している。御旅所遺跡からは奈良時代の掘立柱建物や溝が確認されている。楠公誕生地遺跡からも平城段階の上器が出土している。

本村は南北朝動乱の舞台の1つとなった場所であり、多くの中世の遺跡が存在する。山城跡は昭和9年という比較的早い段階で史跡指定を受けた千早城跡・楠木城跡（上赤坂城跡）・赤阪城跡（下赤坂城跡）をはじめ、二河原辺城跡・本宮城跡・しょうぶ城跡・枡形城跡・猫路山城跡・国見山城跡など多数存在する。館跡と考えられる遺跡としては、楠公誕生地遺跡や桐山遺跡などがある。楠公誕生地遺跡は平成3・4年にかけて「くすのきホール」建設に伴って発掘調査が行われており、14世紀の2重の堀に囲まれた建物跡を確認している。また、付近には「楠公産湯の井戸」の伝承地が残る。桐山遺跡は建武の中興以降の楠木邸跡と伝えられており、「古屋敷」・「花屋敷」・「光明院跡」などの小字名が残り、中世の瓦や土器片が採集されている。他にも矢場武遺跡・曼荼羅院跡・出合遺跡・川野辺遺跡などの中世の遺跡がある。また、矢場武遺跡の周辺には「矢場武」・「甲取」・「城ヶ越」など城跡と関連があると考えられる小字名が残る。

これら埋蔵文化財包蔵地・伝承地などの他にも、森屋惣墓にある河南町寛弘寺神山墓地の正和四年の銘のある五輪塔とほぼ同じ時期の石造五輪塔「寄手塚」や南北朝時代のもので、反花基壇上に塔を備え、大和系の製作手法が伺える石造五輪塔「身方塚」などの石造文化財や建永分神社など多くの文化財が点在する。

【参考文献】

和泉大樹　2000　「千早赤阪村の山城　上赤坂城跡採集遺物」『摂河泉』第30号
和泉大樹　2001　「千早赤阪村の消滅した古墳」「誕生地遺跡発掘調査概要Ⅲ」
尾谷雅彦　1996　「御旅所遺跡出土の韓式系土器」『韓式系上器研究Ⅵ』
千早赤阪村教育委員会　1983　『御旅所・御旅所北古墳調査報告書』
千早赤阪村教育委員会　1995　『誕生地遺跡発掘調査概要Ⅰ』
千早赤阪村村誌編さん委員会編　1980　『千早赤阪村誌』　千早赤阪村役場



第２図　周辺遺跡分布図（１／2,000）

2．調査成果の概要

（1）調査区の概要

森屋西遺跡においては冒頭で記したように、これまでに周辺で中世瓦が多く採集されていること、すぐ東側に西楽寺という寺院が所在していることなどから、中世寺院関係の資料の検出が期待された。本村においては、楠木正成に代表されるよう、中世山城跡や中世集落遺跡などの埋蔵文化財包蔵地が多くを占め、既往の調査成果としては、二重の堀に囲まれた14世紀代の建物跡を検出した楠公誕生地遺跡の調査などの調査成果が挙げられる。

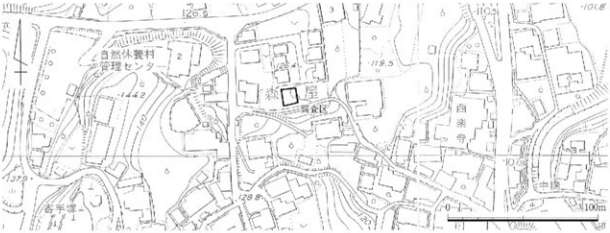
しかしながら、中世瓦については、国史跡に指定されている楠木城跡（上赤坂城跡）の本丸付近で採集された軒丸瓦や同じく史跡赤阪城跡（下赤坂城跡）の所在する丘陵裾部を発掘調査した際に出土した平瓦、建武の中興以降楠木氏館跡の伝承の残る桐山遺跡などで採集された瓦を除けば、まとまってそれらの資料を得たことが無く、当該調査で初めて発掘調査によって中世瓦をまとまって得たことになる。そういう意味でこの調査成果は、本村にとって重要なものになると思われる。

159.76㎡を測る調査区は、金剛山地から派生する丘陵上に位置する。当該調査区はこの丘陵のピーク部よりもやや下がった箇所に位置し、標高は126.0m前後を測る。調査区内での高低差はほとんど無く、一様にフラットな様を呈する。調査区には調査時、果樹が植えられていたため、その影響で調査区南側の一部で樹木根による攪乱が著しい箇所が見られた他は、比較的、残存状況が良好であった。しかし、耕作時に地山面は全体的に削平を受けているように思われる。

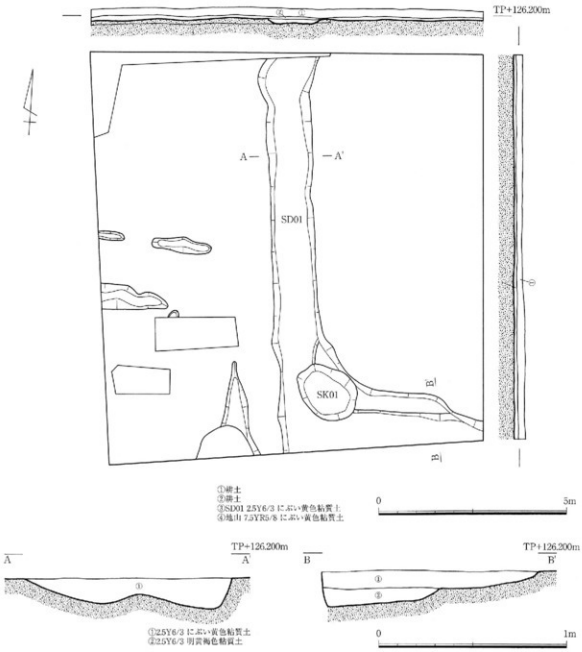
検出した遺構は、溝・土坑・柱穴などであった。なお、これらは作業時に、各々、SD・SK・SPと記号化した。この記号はこの報告書においても使用した。これらの検出遺構のうち、SD01とSK01、とりわけSK01からは瓦がまとまって出土した。SK01からはコンテナ約２箱分の瓦が出土した。SD01からはコンテナ１箱分の瓦が出土した。

この報告書では遺物が顕著に出土したSK01を中心にその概要を記述することとする。

なお、遺構はすべて地山面で検出した。



第３図　調査区位置図

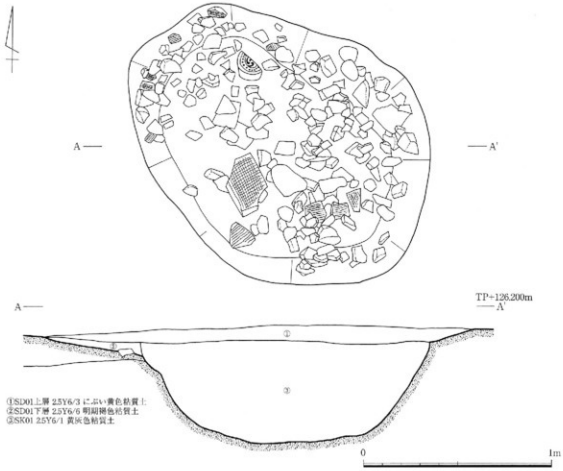


第４図　調査区平面図・断面図及びSD01断面図

（２）調査区の層序

調査区内において、高低差はほとんどなく、色調の違う２種の耕作土が地表面から約30.0cm程一様に堆積する。その直下で地山面を検出した。

なお、明確な遺物包含層は認められないが、耕作土には瓦片の混入が認められる。



第５図　SK01平面図・断面図

（３）主な検出遺構と出土遺物

先にも記したようにこの報告書では遺物が顕著に出土したSK01を中心にその概要を報告する。

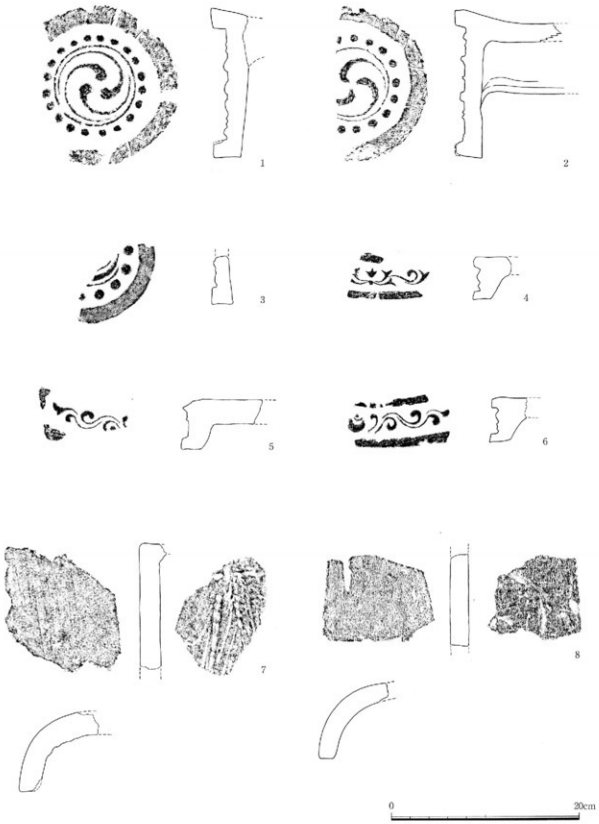
SK01からは遺物コンテナ２箱分の瓦が出土した。瓦は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などである。土師器や瓦器などの土器類は出土していない。これらのうち軒丸瓦・軒平瓦については全点報告するが、丸瓦・平瓦については数点を代表させて掲載した。

また、SD01からも遺物コンテナ１箱分の瓦が出土したが、こちらについては軒丸瓦・軒平瓦のみ掲載した。

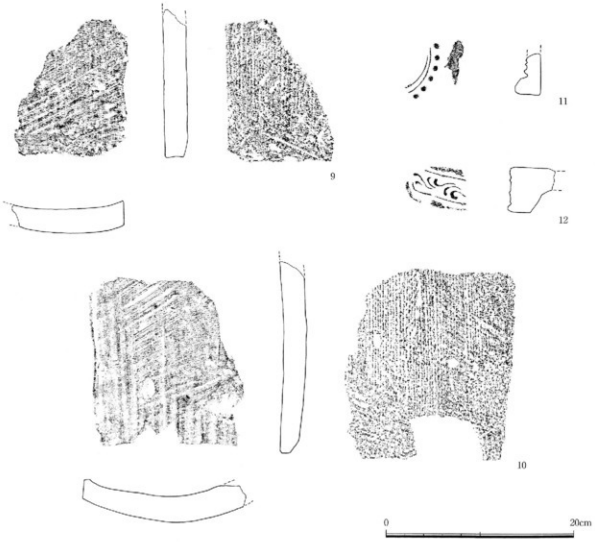
以下、それらについて記述する。

SK01

調査区の中央南隅、後に記すSD01の屈曲部付近で検出した。遺構はSD01の下層を掘り込んで形成される。遺構は北西に長軸をもつ卵形を呈する。深さは約50.0cmを測り、掘形は椀型を呈する。遺構埋土



第６図　SK01出土遺物実測図



第７図　SK01・SD01出土遺物実測図

は黄灰色粘質土の１層である。この遺構からは瓦片や石が廃棄されたような状況で出土した。なお、状況に規則性は認められない。

遺構から出土した遺物を第６・７図に図化、掲載した。１から３は巴文の軒丸瓦である。室町中期～後期頃の時期を考えたい。４から６は軒平瓦である。４は他に比して新しい時期のものであろう。７・８は丸瓦である。７は凹面に紐痕が確認できる。９・10は平瓦である。凹面には布目、凸面には縄痕が残る。

SD01

調査区中央を南北方向に流れ、南端で東方向に屈曲し、その流れを変える。溝幅は約1.0mを測り、

屈曲部ではそれをやや広くする。溝は屈曲部から東方向においては、にぶい黄色粘質土と明褐色粘質土の上下２層から成るが、下層については北側から中央部付近では堆積せず、断面Ａ－Ａ′（第４図）では上層のみ観察できる。溝埋土の状況や遺物の出土状況から明確な流水を推定することは困難であり、遺物は投棄されたままの状況であると判断される。

なお、屈曲部には先に記したSK01が下層より掘り込まれる。

SD01からは遺物コンテナ１箱分の遺物が出土したが、先に記したように本報告書においては、軒丸瓦と軒平瓦について図化、報告する。

11は軒丸瓦である。巴部分を欠き、珠文の箇所のみ残る。残存状況は良好でない。12は軒平瓦である。先に記したSK01出土のそれに比して時期的に古く、鎌倉後期～室町前期頃を考えたい。

３．まとめ

以上、森屋西遺跡の発掘調査の成果について、SK01とSD01を中心にその概要を記した。

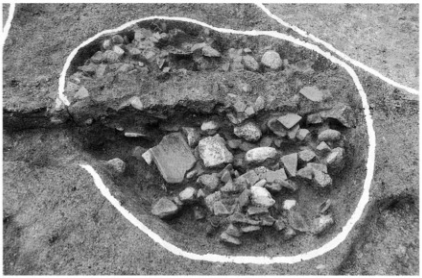
SK01からは、概して室町時代頃の時期と思われる瓦が出土し、SD01からはそれらよりやや古い時期の軒平瓦が出土した。このように本村で中世の瓦がある程度まとまって出土したのは、今回の調査が初めてであり、森屋西遺跡や周辺遺跡の今後の調査に期待される。

また、本報告書には図化、掲載できなかった丸瓦や平瓦も含めて、山城跡採集の瓦や他の埋蔵文化財包蔵地採集の瓦など、本村全体の現在の中世瓦出土・採集状況を把握する意味を込め、機会をつくって報告を行いたいと考えている。

図　　版

図版1　調査区全景等

調査区全景



SK01全景

SK01遺物出土状況

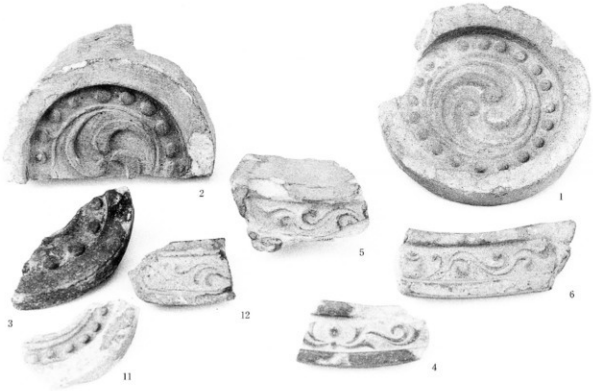
図版2　SD01遺物出土状況等

SD01遺物出土状況

SD01断面A－A′

SD01断面B－B′

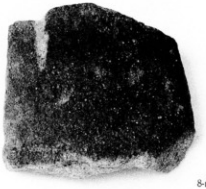
図版3　SK01・SD01出土遺物（軒丸瓦・軒平瓦）



※番号は実測図番号に対応（第6・7図）

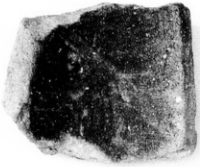
図版4　SK01出土遺物（丸瓦）

7-凸



8-凸

7-凹



8-凹

※番号は実測図番号に対応（第6図）

図版5　SK01出土遺物（平瓦）

9-凸

10-凸

9-凹

10-凹

※番号は実測図番号に対応（第7図）

報告書抄録

ふりがな	もりやにしいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	森屋西遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次数	Ⅱ
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集著者名	和泉大樹
編集機関	千早赤阪村教育委員会
所在地	〒585-0041　大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分 263 番地
発行年月日	西暦 2005 年　3 月　31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
森屋西遺跡 MYN－02	大阪府 南河内郡 千早赤阪村 大字森屋	27383		34° 27′ 38″	135° 37′ 15″	2002.03.11. ～ 2002.03.16.	159.76 ㎡	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
森屋西 MYN－02	散布地	中世	溝 土坑	瓦	

森屋西遺跡発掘調査報告書Ⅱ

2005年３月31日

発　行　　千早赤阪村教育委員会

千早赤阪村大字水分２６３番地

０７２１－７２－１３００

印　刷　　（株）中島弘文堂印刷所